

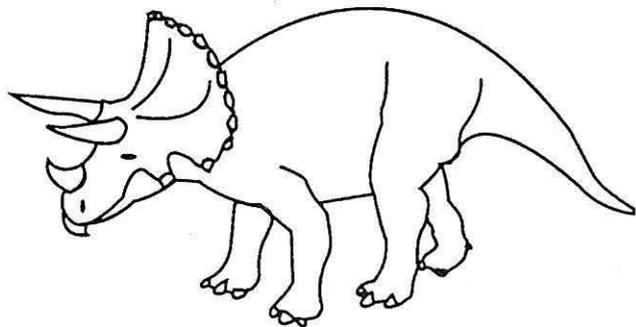
トリケラトプス (3本の角をもつ顔)

今年の夏の特別展「タイムトラベル化石ツアー」では、富山に初めてトリケラトプスの全身骨格がやってきました。オープニングでは解説を聞きながらの骨格の組み立て作業も見ることができました。

トリケラトプスは中生代白亜紀後期（約 7000 万年前）に北アメリカに生息していた植物食の恐竜で、角竜類の仲間です。同時代の北アメリカにいた大型肉食恐竜のティラノサウルスに食べられていたとも考えられています。トリケラトプスは大きなものは全長 10m にもなりました。とがったくちばしで植物をついばみ、上アゴと下アゴに上下左右にびっしりとならんだ歯で、植物をすりつぶして食べていました。

トリケラトプスの頭の後ろには大きなフリル（えりかざり）があります。これはティラノサウルスなどの肉食恐竜から大事な首を守るためや、オスがメスをひきつけるのに使うために発達したなどの理由が考えられています。トリケラトプスの頭には目の上に 2 つ、鼻の上に 1 つの計 3 つの角があります。ラテン語（古代ローマで使用された言葉）で「トリケラトプス」は「3本の角をもつ顔」という意味があり、「トリ」は数字の「3」の意味です。トリケラトプスの仲間には角を 2 本、5 本もつものもいました。それぞれ、ディケラトプス、ペンタケラトプスという学名（生物につけられた世界共通の名前）がついています。そうです、ラテン語で「ディ」は「2」を、「ペンタ」は「5」の意味があります。恐竜の学名にはそれぞれの特徴を示す意味があります。自分の好きな恐竜の学名の意味も調べてみましょう！新しい発見があるかもしれません。

トリケラトプスの骨格はもう展示していませんが、1階ロビーにダンボールで作った「トプスくん」を展示していますのでぜひ、ご覧ください。



トリケラトプス

(2009年1月 藤田将人)